

**UNITIKA**  
We Realize It!

ユニチカCSR  
レポート

2011 

**UNITIKA Group**

Corporate Social Responsibility  
Report 2011





トップメッセージ	2
<b>マネジメント</b>	
● 編集方針	3
● 会社概要	4
● 経営理念	5
● コーポレート・ガバナンス	5
● 内部統制	6
● CSR推進体制	7
● 環境管理・安全衛生管理	7
● 情報セキュリティ管理	7
● コンプライアンス推進のために	8
● ユニチカ購買方針	9
<b>社会性報告</b>	
お客さまとのかかわり	10
● 安全な製品を提供するために	10
● 品質保証活動	10
株主と投資家の皆様とのかかわり	11
● IR活動の状況	11
● 株式の状況	11
地域社会や地球環境とのかかわり	12
● 地域社会に対する取り組み	12
● 環境・生物多様性保全に対する取り組み	12
● 震災被害地への支援活動	13
● 発展途上国などへの支援活動	13
● 防災活動への取り組み	14
従業員とのかかわり	15
● 人事制度	15
● 均等な機会の提供	15
● 人材育成の取り組み	16
● メンタルヘルスへの取り組み	16
● 人権啓発推進への取り組み	16
● 安全衛生に対する取り組み	17
● 石綿関連の現状と対応	17
<b>環境報告</b>	
● 環境基本方針	18
● 環境保全活動	19
● 環境中期計画	20
● 大気と水域への環境負荷低減	21
● 化学物質管理への取り組み	22
● 物流にかかわる環境負荷の低減	22
● 環境に関する苦情	22
● 環境負荷の全体像	23
● 環境会計	24
環境保全のための商品と技術	25
● 植物由来のバイオマス素材／テラマック・キャストロン	25
● 究極の環境配慮型素材／ポリ尿素	26
● 再生ポリエステル繊維／ユニエコロ	26
● ユニフォームリサイクルシステム／エコラリー	26
● 再生ガラスビーズ／ユニピース	27
● 低環境負荷 侵食防止シート／セグローバ	27
● 大気汚染防止関連・環境測定	27
事業所情報	28



## CSRレポートの発行にあたって

### はじめに

去る3月に発生しました東日本大震災は未曾有の被害を我が国にもたらしました。被災されました皆様には、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。微力ではありますが、当社の支援活動と製品・サービスなどの事業活動が復旧・復興の一助になれば幸いです。

### 構造改革と事業戦略

当社グループは、2009年度から2011年度までの中期経営3カ年計画『改革'11』に掲げる施策に基づき、固定費削減や低採算分野事業の見直しなどの構造改革と、高分子事業を中心とした販売改善を推進しています。さらに、計画の後半では綿спанレース製造の合併会社設立や、インドネシア子会社でのナイロンフィルム生産設備の増設、および高分子・機能材分野を中心とした研究開発の強化など、次期中期計画以降に向け、成長戦略に軸足を置いたアクションを企図しています。こうした事業の育成・強化と、環境変化に適応する企業体質の構築は、中・長期的に企業価値の向上に繋がると認識しています。

### CSR活動と環境への貢献

当社では、「環境管理と保全」「コンプライアンス」「内部統制」「製品や従業員の安全管理」「リスクマネジメント」を軸としたCSR活動を推進しています。中でも「コンプライアンス」の重要性を役員・従業員が常に意識し、一人ひとりがフェアプレイに徹してきたことが今日の当社グループへの信頼を築いてきたものと自負しています。『改革'11』において、当社は機能資材を核とした事業強化を進めることを標榜し、「地球環境への貢献」を中核的なCSR活動として位置づけています。この活動は将来にわたって、多種多様な生物が共存できる緑豊かな地球環境を守っていくために必要不可欠な取り組みであるとともに、当社の社会的な存在価値の向上にも繋がるものです。この趣旨は、2010年の生物多様性条約締結国会議(COP10)で採択された『愛知ターゲット※1』の全体目標や、日本経団連が発表した『生物多様性宣言※2』にも重なります。

### 当社の使命とめざす姿

経営理念である「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」に基づいて、独自性や強みを生かし、環境負荷の低減や環境保全に貢献できる製品・技術を提供



ユニチカ株式会社 代表取締役社長

安江 健治

していくことが当社グループの使命と考えています。その一例としまして、ポリ乳酸を原料とした『テラマック』や植物由来ナイロン11を原料とした『キャストロン』といった事業化済みの素材に加え、CO<sub>2</sub>を原料にしたバイオマス由来ポリマー『ポリ尿素』などの全く新しい環境配慮型素材の研究開発に取り組んでいます。当社グループは、上記のような環境配慮型ビジネスの育成強化を図ることにより、経営ビジョンに掲げる「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」をめざしてきました。これらの取り組みを含め、各期の計画数字を着実に達成することにより、企業価値の向上に努めてまいります。加えて、CSRの精神に基づき、法令順守といった個々の取り組みから、「地球環境への貢献」といった大局的な取り組みに至るまで、グループ一丸となって推進してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。本年のCSRレポートが、当社グループの取り組みについて、皆様のご理解を深めていただく一助となることを願っています。

※1:『愛知ターゲット』の全体目標

人間の豊かな生活を保証し、健全な生態系を確保する目的で、国際社会が生物多様性の損失を止めるための効果的な緊急行動を起こすことを求めている。

※2:『生物多様性宣言』

社団法人 日本経済団体連合会が2009年3月に発表。自然循環と事業活動の調和や自然循環型経営の推進など7原則から成る宣言。



## 編集方針



### ●発行履歴と対象期間

2002年から『ユニチカ環境報告書』を毎年1回発行しています。2006年からは内容を拡充し、CSR推進活動やステークホルダーとの関わりについても報告しています。

本報告書の対象期間は、2010年4月1日から2011年3月31日ですが、一部内容によっては2011年4月1日以降の報告もあります。

### ●参考にしたガイドライン

環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしました。

### ●本レポートの対象範囲

原則としてユニチカ株式会社の国内事業所及び海外を含むユニチカグループ会社を対象としています。なお、環境報告の対象範囲は次のとおりです。

国内事業所	事業所内グループ会社	国内グループ会社
宇治事業所	(株)アドール	(株)アイテックス
岡崎事業所	日本エステル(株)	大阪染工(株)
坂越事業所	ユニチカエヌピークロス(株)	ダイアボンド工業(株)
垂井事業所	(株)ユニチカ環境技術センター	寺田紡績(株)
豊橋事業所	ユニチカグラスファイバー(株)	(株)ユニオン
常盤事業所	ユニチカ設備技術(株)	ユニチカスパークライト(株)
貝塚事業所	ユニチカトレーディング(株)	ユニチカスピニング(株)
中央研究所	ユニチカテキスタイル(株)	ユニチカバークシャー(株)
	ユニチカロジスティクス(株)	ユニチカリアルティ(株)

### ●発行日と発行形態

本報告書は2011年10月からユニチカ株式会社のWebサイトから閲覧できるようにしています。

ユニチカでは環境負荷を考慮し、2002年から冊子での発行は行わず、Webサイトでの公開のみとしています。次回発行は2012年10月予定です。

### ●CSRレポート中の用語の解説

- CSR：Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。
- ステークホルダー：顧客、株主、取引先、社会・地域、社員など企業に利害関係を持つ人や組織。
- コーポレートガバナンス：企業統治。企業を健全に運営するための意志決定の仕組み。
- コンプライアンス：法令や企業倫理の順守。



## 会社概要

- 会社名 ユニチカ株式会社
- 創立 1889(明治22)年6月19日
- 資本金 238億円(2011年3月31日現在)
- 大阪本社  
〒541-8566 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
- 東京本社  
〒103-8321 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号
- 研究所  
〒611-0021 京都府宇治市宇治小桜23
- 従業員(連結) 4,845名(2011年3月31日現在)
- 売上高(連結) 1,807億円(2010年度)
- 主要製品(連結)  
高分子事業: フィルム、樹脂、不織布、バイオプラ  
機能材事業: 活性炭繊維、ガラスクロス、ガラスビーズ、  
高機能多孔板、芳香族ポリイミド  
繊維事業: 産業資材、衣料・生活雑貨・寝具、バイオプラ  
その他事業: 生活健康・メディカル・環境調査・分析、  
建設・不動産など  
(2011年3月31日現在)

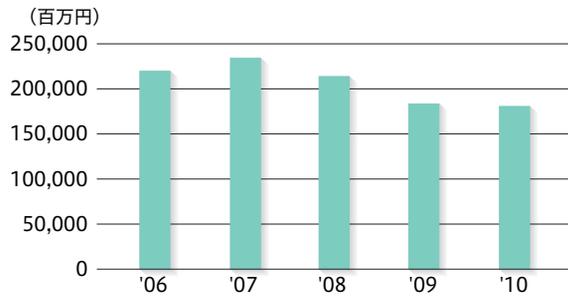
### ■環境事業の事業譲渡について

上下水道分野浸出水処理施設を中心とした水処理事業、キレート剤などの薬剤事業、焼却炉の設計、建設、補修改造およびメンテナンスを中心としたごみ処理事業を平成23年4月1日に日立造船グループなどへ譲渡しました。

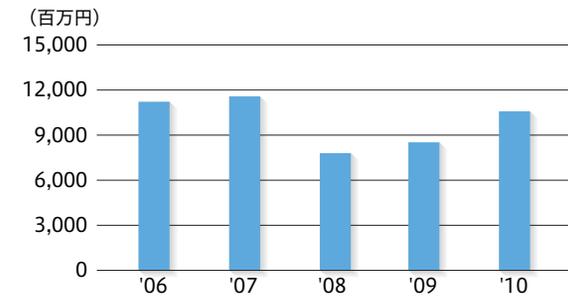
### ■第三者割当による無担保転換社債型新株予約権付社債の発行について

インドネシアでのナイロンフィルム生産設備の増強や高分子事業などの研究開発資金として、第三者割当による無担保転換社債型新株予約権付社債 額面総額50億円を平成23年4月8日に発行しました。

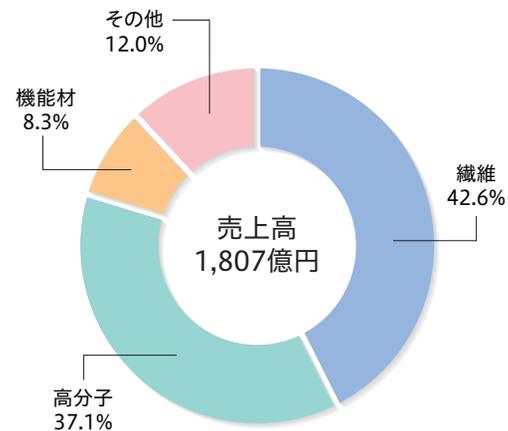
### ■売上高の推移(連結)



### ■営業利益の推移(連結)



### ■事業別売上高構成比(2010年度連結)



当期から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号)の適用に伴い、事業セグメント区分を変更しました。



## 経営理念



### 「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」

私たちユニチカグループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営の理念とし、経営ビジョンである「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」を目指しています。

ユニチカグループスローガン

**UNITIKA**  
We Realize It!

たくさんの人々がいます。人の数だけ夢や願いがあります。  
そのすべてに、ユニチカグループはひとつの想いで応えていこうと考えています。  
ひとつの想い—それは人の暮らしの豊かさに貢献し、この地球環境と共に生きていくこと。  
私たちにはその想いを動かしていく、発想力があります。  
可能性という発想の芽を大きく育てる技術と活力があります。  
あるときは事業領域にかかわる各社が結束し、またあるときは多分野の能力を統合しフル稼働させる。  
私たちは、そうしたさまざまな動きを常に多角的に同時進行で展開させています。  
人々の毎日から生まれる想いを実現する力—We Realize It!—。  
私たちはユニチカグループです。

## コーポレート・ガバナンス



### ●基本方針

私たちユニチカグループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念により、「社会的存在感のある企業」を目指し、事業活動を行っています。また、ガバナンス戦略として、迅速な意思決定、コンプライアンス、リスクマネジメントの強化、適時的確な情報開示などを掲げ、ステークホルダー重視の経営に取り組んできました。目まぐるしく変化する経営環境の中で、ガバナンス戦略に掲げる姿勢を継続していくことがユニチカグループの企業価値を高め、持続的な成長を可能にするものと考えています。今後も、コーポレート・ガバナンスを念頭に置いた企業経営を推進していきます。

### ●実施状況

ユニチカでは、「経営意思決定・経営監督(ガバナンス)機能」と「業務執行(マネジメント)機能」を分けて明確化する経営システムを導入しています。

「取締役会」をガバナンス機能に特化した機関と位置付け、グループ経営全般に関する方針や諸課題については「経営推進会議」で審議しますが、特に重要な案件については「取締役会」に諮る体制となっています。また「業務執行会議」は事業運営などマネジメントに関する意思決定機関として機能しています。

内部統制システムについては、社長を委員長とするコンプライアンス委員会、CSR室を中心とした社内情報収集・監査体制、社内外への内部通報窓口の設置など、適時に対応できる体制をとっています。

また、『ユニチカ行動憲章』『ユニチカ行動基準』をグループの全役員・従業員に配布し、入社時や昇格時研修で教育するなど、コンプライアンスの啓蒙にも努めています。

### ●コンプライアンスに関わる重大な事故

昨年、弊社子会社であるユニチカ設備技術(株)が、国土交通大臣による認定内容と異なる仕様の耐火スクリーン製品「ユニファイヤーガード」シリーズを製造・販売していたことが判明しました。弊社は直ちに事実関係の調査を進めると共に国土交通省に報告、指導を仰ぎ、認定内容と異なる仕様の製品につきましては、お客様のご了解を頂いた上で新たに公的な性能試験を受験し、再認定取得を進めさせて頂くことになりました。現在、再認定取得は順調に進捗しており、本レポートの公開時までは全てのお客様に新たな認定証をお届けできているものと確信しております。

本件につきまして、多大なるご迷惑とご心労をお掛け致しました関係者の皆様に深くお詫び申し上げますとともに、私たちユニチカグループは再び皆様から信頼いただけるよう、初心に立ち返って努力して参ることをお約束いたします。



内部統制



2007年から、内部統制推進室を設置し、財務報告に係る内部統制の構築を進めてきました。2008年には内部統制に関連した部署を統合してCSR室を設置し、内部統制の推進に取り組んでいます。

●基本方針

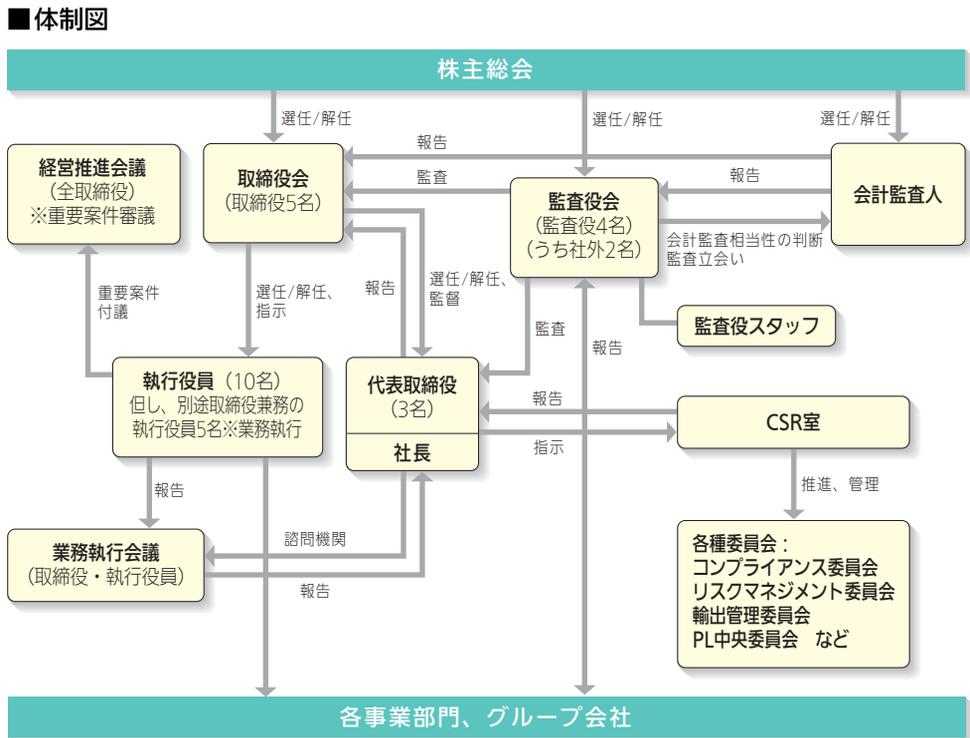
「ユニチカ内部統制基本方針」は以下の9項目です。

■ ユニチカ内部統制基本方針（大項目） ■

1. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理に関する事項
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 財務報告の信頼性を確保するための体制
7. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制
9. その他監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制

●体制

コーポレート・ガバナンス、公正な企業活動を推進するための体制を下図のように定めています。基本にあるのは、上記の「ユニチカ内部統制基本方針」です。この体制により、コンプライアンス、情報の保存・管理、リスク管理や安全保障輸出管理、取締役の職務執行効率化、業務の適正の確保といった内部統制を厳正に行っています。





CSR推進体制

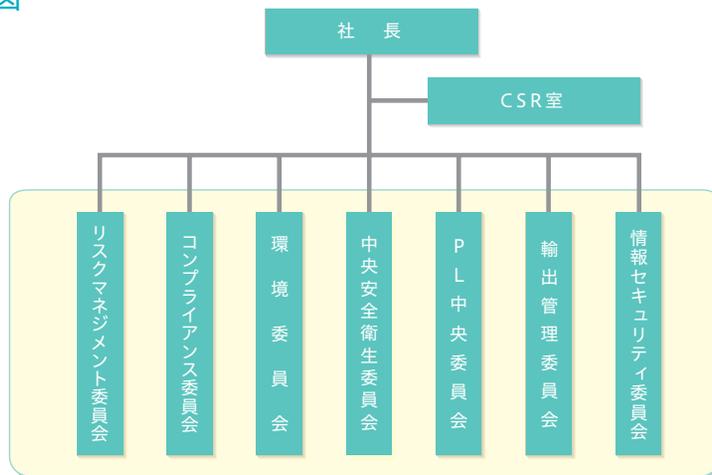


環境への配慮や安全対策をはじめ、コンプライアンスやリスクマネジメントなどCSR活動全体を推進し統括する組織としてCSR室およびCSR担当役員を設置しています。

CSR室を中心に各種委員会と事業本部からなる管理体制を確立し、CSR活動を推進しています。

重点活動としては(1)環境管理・安全衛生管理、(2)情報セキュリティ管理、(3)コンプライアンス推進、(4)製品安全性の確保、(5)安全保障輸出管理などがあります。

●CSR推進体制図



環境管理・安全衛生管理



ユニチカでは、環境管理および安全衛生管理を主管する組織として環境委員会と中央安全衛生委員会を設置しています。環境委員会においては主に環境配慮型経営の基本計画ならびに進捗状況の検証、委員会事務局が実施する各事業所・グループ会社の環境監査結果の報告およびその他環境に係る重要事項の審議を行います。また、中央安全衛生委員会は労災をはじめとする各種の事故災害を防止するための施策やその他安全衛生上の重要事項に係る審議を行っています。この両委員会は、各事業所・グループ会社が組織する環境安全グループを統括する上部組織でもあり、各組織がそれぞれ固有の事情を反映した施策を立案実施する際に、グループとしての方針を示し取りまとめる重要な役割をも担っています。

情報セキュリティ管理



●情報セキュリティの管理

情報資産の機密性保持、不正利用の防止を目的として、「情報セキュリティ基本方針」を定めています。「情報セキュリティ宣言」を掲げ、情報セキュリティ委員会を中心とした管理・運用体制を確立。お客様の個人情報や事業活動における情報の保護とその有効利用を図っています。

■ ユニチカ情報セキュリティ宣言(前文略) ■

1. 情報セキュリティポリシーを基に情報セキュリティ対策を実施します。
2. 情報セキュリティ管理体制を構築し組織的に取り組みます。
3. 役員ならびに全従業員に対し情報セキュリティポリシーの啓蒙と教育を実施し、情報セキュリティ事故の防止に努めます。
4. 継続的に情報セキュリティの改善に努めます。
5. 個人情報保護法をはじめとして関連するすべての法令その他の規範を遵守します。

\*情報セキュリティポリシーとは、「情報セキュリティ宣言」「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ対策標準」「情報セキュリティ実施手順」により策定・管理される文書。



コンプライアンス推進のために



ユニチカでは、1998年に『ユニチカ行動憲章』を制定。さらに、コンプライアンスを徹底しながら人々の暮らしと環境に貢献する企業として、ユニチカグループの従業員が活動できるよう、具体的な行動などの基準を明記した『ユニチカ行動基準』の冊子を、すべての役員と従業員に配布しています。2011年度には、国際的なルールに則り、強制労働・児童労働・人身売買といった非人道的な不当労働行為を許さないことを目指す、と追記しました。毎年、新入社員をはじめ全ての昇格者研修時にコンプライアンス研修を実施することで、従業員へのコンプライアンス意識の周知と定着に努めています。



●ユニチカ行動憲章

『ユニチカ行動憲章』は、ユニチカが社会的使命を果たすための基本的な方針です。ユニチカグループの全役員、全社員に適用しています。

ユニチカは、法律、国際ルールを順守するとともに、社会的良識を持って行動します。

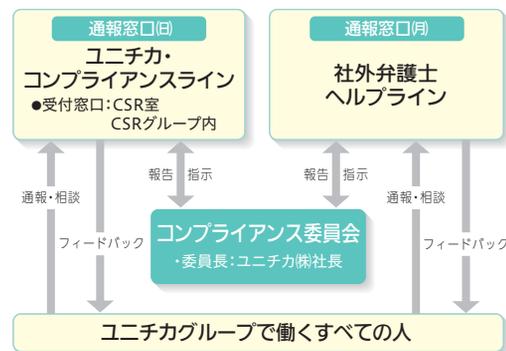
1. 社会に有用な財・サービスを環境・安全に十分配慮して開発・提供します。
2. 公正で自由な競争を行い、また政治・行政とは健全な関係を保ちます。
3. 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を適時・公正に開示します。
4. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の人格・個性を尊重します。
5. 海外の文化・慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。
6. 秩序・安全に脅威を与える反社会的勢力には毅然と対応します。
7. 「良き企業市民」として基本的人権を尊重し、社会貢献のための活動を行います。

●内部通報窓口の設置

「公益通報（内部通報）取扱規程」を施行し、従業員が不正・違法行為に気づいたらすぐに通報できるよう社内と社外に2つの通報窓口を設置しています。また社長を委員長としたコンプライアンス委員会を中心に、社内コンプライアンスの徹底を図っています。

また規程には、通報者のプライバシー保護や通報を理由とした不利益な取り扱いの禁止などを明記しています。

■ユニチカの内部通報窓口



●セクハラ・パワハラ相談窓口の強化

職場におけるセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどに関する対策窓口（電話やEメールで受付）を各事業所やグループ会社に設置し、早期発見と早期解決を目指しています。また、相談窓口担当者のスキルアップや担当者間の連携強化を目的とした研修会を随時、開催しています。



ユニチカ購買方針



●購買方針

ユニチカの購買部門は、人々と社会に認められる透明性のある公正な調達を進めます。さらに「CSR活動」にも重点を置き、企業として責任ある調達活動を進めていきます。

1. 法令の順守

購買活動の実行にあたり、法令・社会規範を順守し、透明性のある公正な調達活動に取り組み、良き企業市民を目指します。

2. 地球環境との調和

製品・サービスを調達するにあたり、環境への配慮と安全性確保を重視し、地球環境への負荷がより少ない商品・原材料の購買に努めます。

3. 人権尊重と労働環境の向上

購買活動において、人権を尊重し、あらゆる差別を排除して職務を遂行します。また社内で働くすべての人々に対して、安全・衛生の確保、労働環境の向上に取り組みます。

4. お取引先様について(CSRの観点から)

より良いパートナーシップの構築を目指し、下記を要望いたします。

- ① 法令・社会規範を順守されていること
- ② 人権を尊重し、労働環境の改善・向上の取り組みを重視されていること
- ③ 環境の保全と、安全の確保の為に活動に取り組んでいること
- ④ 適正な品質・価格及び確実な納期、また製品・サービスの維持向上に努めていること

TOPICS トピックス

2011年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって関東・東北地方は甚大な被害を受け、いまなお多くの方々が不自由な避難所や仮設住宅での生活を強いられています。そのような被災地の方々の心と体のケアを目的として、(財)こうべ市民福祉振興協会「しあわせの村」に関わる事業者団体が企画した『東北支援ライブツアー2011』にユニチカは協賛しました。

ツアーは去る7月20日～22日の3日間に渡って、宮城県や福島県の児童館、小学校、仮設住宅集会所など4箇所で開催されました。ライブではユニチカマスコットガールERICAのイメージソングでタイアップしている“Picture Perfect”のコンサートをはじめ、昔遊びやストレッチ体操の指導、神戸市民からの応援メッセージの贈呈などが行われ、被災地の方々へ「笑顔」を届けることができました。





お客様とのかかわり

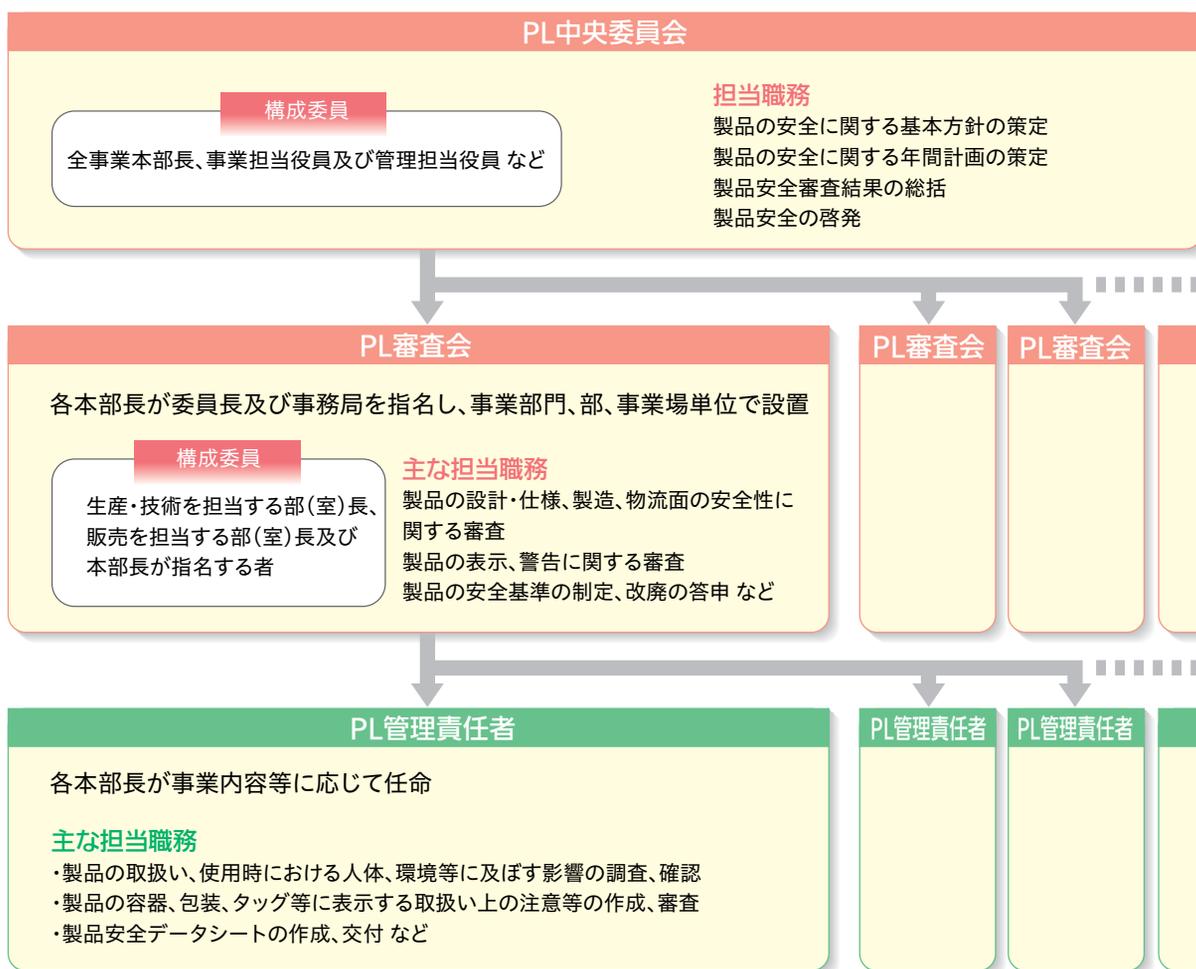
私たちユニチカグループは、PL・品質保証を通して製品の安全性や品質の向上を図り、常にお客さまのご満足を第一に製品づくりに努めています。

安全な製品を提供するために



ユニチカは、お客様に安全な製品を提供するために「製品安全管理規程」を制定しています。基本方針から責任の所在、推進体制、マニュアルの運用や適用の細則まで詳細に定めており、この規程に則って安全な製品の製造・販売に努めています。

なお、製品の安全を図るために設置された「PL中央委員会」を中心とする推進体制は下図のとおりです。



●2010年度製品安全に関する結果

PL(製造物責任)に関する事故はありませんでした。

※事故につながるおそれのあるようなクレームについても、PL中央委員会で情報を共有化し、日々、再発防止の対策をすすめるなど改善活動を行っています。

品質保証活動



お客様にご満足いただける商品を提供するため、ユニチカグループでは品質マネジメントシステムの認証取得をすすめています。ISO9001を基本とした総合的な品質マネジメントシステムを確立し、継続的な改善を図ることによって品質保証活動を展開しています。



## 株主と投資家の皆様とのかかわり

私たちユニチカグループは、ステークホルダー重視の経営の観点から、株主や投資家の皆様に対して多様な機会を通じて適時・的確かつ公平な情報公開に努めています。

IR広報グループはこれらを円滑に行えるよう活動を展開し、株主や投資家の皆様との対話の充実を図っています。

## IR活動の状況



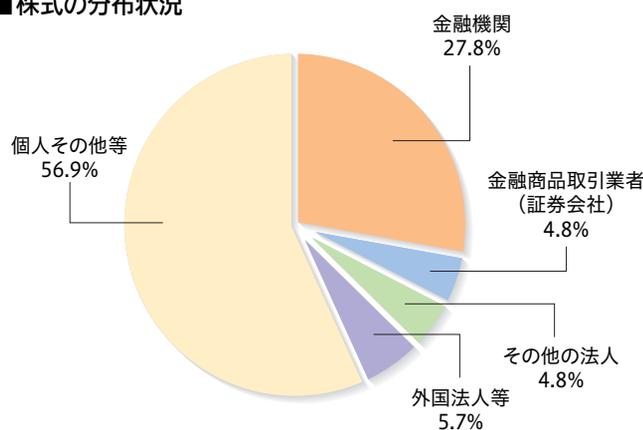
- 定時株主総会** 毎年6月下旬に開催しています。最新の業況のご説明、株主の皆様との対話を通じて、当社の経営状況と方針などについての理解を深めていただけるよう努めています。
- 決算発表および説明会** 年2回、第2四半期決算と通期決算発表日には新聞記者の皆様を対象にした決算報告を、また同発表日の約1週間後に、機関投資家およびアナリストの皆様を対象とした決算説明会を、それぞれ実施しています。
- 機関投資家訪問** 機関投資家、アナリストの皆様を訪問し、個別の取材対応を行っています。
- 各種発刊物**
  - ・決算短信(年4回 四半期ごと 5月、8月、11月、2月発行)
  - ・株主通信(年2回 第2四半期、通期決算後)
  - ・会社案内
- Webサイトでの情報開示** 当社Webサイト内「株主・投資家情報」において、IR情報や製品・サービスに関するプレスリリースなどの情報を開示しています。また決算短信やIR説明会資料、有価証券報告書などのバックナンバーも揃えています。

## 株式の状況(平成23年3月31日現在)



- 発行済株式の総数 475,969,000株
- 株主数 62,863名
- 単元株主数 52,720名

### ■株式の分布状況



## TOPICS トピックス

ユニチカは「高分子制御技術による易引裂ポリエステルフィルムの開発育成」で平成23年度文部科学大臣表彰・科学技術賞を受賞しました。易引裂ポリエステルフィルムとは当社が培った延伸技術と素材技術によって生まれたフィルムであり、「エンブレット」の商標で食品包装などに幅広く展開しています。



## 地域社会や地球環境とのかかわり

私たちユニチカグループは、地域と連携した美化運動や防災活動から森林保全や発展途上国における教育支援まで、様々な情報発信を通じて、地球環境の保護や生物多様性の保全、健全な子どもたちの育成などを目指して活動しています。

### 地域社会に対する取り組み

#### ●エコ京都

「エコ京都21」は京都府が、地球環境保全や循環型地域社会づくりに率先して取り組んでいる事業所などを認定・登録する制度です。この活動に宇治事業所は参加し、創意あふれる環境配慮活動を推進している事業所・団体を対象とする、エコスタイル部門の認定・登録を2004年から受けています。



#### ●地域の美化運動の実施

各事業所では、社会貢献活動として事業所周辺の環境美化活動を積極的に実施しています。宇治事業所では、地域美化清掃活動である「クリーン宇治」運動に参加して、事業所周辺の清掃活動を年3回実施しています。2010年度は、延べ835名が参加しました。



宇治事業所のクリーン宇治活動

岡崎事業所でも、毎月第二木曜日に約80名が参加し、事業所周辺の美化運動を行っています。また、年1回、地域ボランティア活動として、事業所周辺の河川敷の清掃も実施しています。2011年は約150名が参加して5月に実施されました。



岡崎事業所の周辺地域の清掃活動

#### ●災害時における地域との連携

岡崎事業所では、水害時に地域住民の避難先として工場を開放したり、地震などの災害時に備蓄している化学消火薬剤やオイルマットなどの消防資機材を提供することを自治体や消防本部と取り決めてあります。また昨年は、消防本部と岡崎事業所、併設する商業施設、地域住民も参加した中高層建築物防火訓練を実施し、地域社会との連携を深めています。

### 環境・生物多様性保全に対する取り組み

#### ●生物多様性宣言への参加

ユニチカは社団法人 日本経済団体連合会が2009年に発表した『生物多様性宣言』の趣旨に賛同し、推進パートナーズに参加しています。この宣言は、自然循環と事業活動の調和や自然循環型経営の推進など7原則から成り、当社は生物多様性に配慮した事業活動を推進していきます。

#### ●ユニチカの森プロジェクト

労働組合であるユニチカユニオンは結成30周年を記念し、社会貢献や生物多様性の保全を目指した環境保護を目的に「緑のプラン」を2003年にスタートさせ、『ユニチカの森プロジェクト』を実施しています。和歌山県日高川町の山林2haにクヌギ、コナラ、ヒノキを植林し、年数回現地を訪れ、従業員による下草刈りや枝打ちなどをおこなっています。2010年には24名が参加し、周辺の下草刈りなどを行いました。この活動は和歌山県より「森林による二酸化炭素の吸収等環境保全活動」に認証され、100年間で約800tのCO<sub>2</sub>の吸収が見込まれています。





## 震災被害地への支援活動



未曾有の被害を及ぼした東日本大震災に関し、ユニチカグループでは日本赤十字社を通じて2,000万円の義援金を寄付しました。また、避難者や復旧に関わる作業の方々の健康保護と衛生管理のお役に立ててもらうため、防塵用マスク100万枚とコットン不織布ウェットからだふきタオル34万本を自治体に提供しました。なお、当社グループにおける人的被害はなく、建物や設備への被害も軽微でした。

## 発展途上国などへの支援活動



ユニチカユニオンでは1992年にボランティア基金を設立し、国内外での活動をスタートしました。国内では身障者施設での支援活動や研修会の開催、海外では国際交流ワークキャンプへの派遣や災害支援に対するカンパ活動など、ボランティア活動が活性化するように取り組んでいます。

従業員が青年海外協力隊などの社会貢献活動に参加する場合には、一定期間休職できる「ボランティア休職制度」があります。現在は男性従業員1名が本制度を利用し、2010年9月よりアフリカのマラウイ共和国で、現地の小・中学校や高校の理数科教師として活躍しています。



## TOPICS トピックス

2010年10月の日曜日、和歌山県串本町の有田漁港にて開催した「ユニチカエギングフェスタ2010」に、マスコットガールERICAが参加しました。ユニチカエギング※四天王の杉原正浩氏、弓削和夫氏、重見典宏氏をゲストに迎え、155名の参加者が制限時間内に釣り上げたアオリイカの重量を競いました。競技終了後、参加者とスタッフ全員で行った会場周辺の清掃では、ERICAもゴミ袋を手に、率先してゴミ拾いを手伝いました。

※エギングとは餌木(エギ)といわれる疑似餌を使用してアオリイカを釣る釣法





## 防災活動への取り組み



「従業員の命を守る」という基本的な使命と、「事業を継続する」というステークホルダーへの責任を果たすためには、東日本大震災のような巨大災害に対する「備え」が必要です。私たちユニチカグループでは、耐震改修促進法に基づいて各事業所の建築物や設備の調査を進める傍ら、緊急時のエネルギー自給体制の確立を目指し、事業所のエネルギー転換と並行して自家発電設備の整備などを進めています。

### ●防災訓練の実施

ユニチカグループでは、生産事故や周辺被害事故を起こさない体制づくりに加えて、事故や自然災害に備えた訓練活動にも積極的に取り組んでいます。

生産施設の安全管理を徹底する社内基準として『新設備等の安全衛生および環境に関する事前評価指針』を制定しています。設備の新設・改造などを行う場合は、この基準に照らし、設計時と完成検査時の計2度にわたり厳正な審査を行い、災害防止に努めています。

岡崎事業所では、毎年11月に「事業所防災の日」を設け、事業所一斉に防災訓練を実施しています。2010年度は、東海地震を想定した情報伝達訓練、避難訓練、危険物漏えい防止訓練などを実施しました。



消火訓練(岡崎事業所)



漏えい防止訓練(岡崎事業所)

垂井事業所や宇治事業所でも、春や秋の火災予防運動期間にあわせて、通報・連絡・避難・消火訓練などを実施しています。また宇治事業所では、毎年、宇治市消防訓練大会に参加しています。2010年度は市長賞をはじめ4部門で入賞し、日ごろの訓練の成果を発揮しました。



消防隊消火訓練(垂井事業所)



宇治市消防訓練大会(宇治事業所)



従業員とのかかわり

私たちユニチカグループでは、社員の自己実現を支援する人事制度を運用しています。また雇用や職務の機会均等を図るとともに、安全・衛生に配慮した快適で働きやすい職場環境づくりに努めています。

人事制度

●評価制度

ユニチカの人事制度は、社員の「やる気」を大切に、組織の活力を高めていくことを目的としています。成果を出した人や困難な課題にチャレンジしている人が、より報われる「成果主義的人事評価制度」を取り入れています。具体的には、年2回の目標管理制度と年1回のコンピテンシー評価制度により、目標に対する達成度を公正に評価し、能力開発目標を明確にして、人材育成に直結させています。評価結果については、上司との面談を通じて社員一人ひとりへ、確実にフィードバックを図り、評価の透明性、納得性を高めています。

●自己申告制度(キャリアプラン)

毎年1回の人事評価制度と同時に「キャリアプランシート」という名称の適性・配置自己申告シートを提出することとしています。このシートの内容は(1)現職に対する考え、(2)中長期的な視点での自己キャリアプラン、(3)キャリアに関する当面の希望(異動希望の有無など)、(4)自分の強みやキャリアプラン実現に向けての取り組み、(5)配置に関する特記事項(配慮事項など)や職場における改善提案などがあり、「能力開発目標」や「期待役割」について明確にするツールとしても活用しています。更に、一定年齢以上の者には再雇用制度の希望の有無についても確認しています。また優秀な人材育成の観点から、ジョブローテーションが重要と認識しており、複数の部署を経験することによる能力向上を図るとともに、早期抜擢などの目的で若手を中心に適宜ローテーションを実施しています。

均等な機会の提供

●女性の活躍

女性の能力や感性を評価し、採用や昇進・昇格などで差をつけず、女性の積極的活用に取り組んでいます。ここ5年の女性採用比率は20.5%で、女性管理職も活躍しています。

●再雇用制度

ユニチカでは、60歳を超えても同じ仕事を続けることができるよう、「エルダー社員制度」を設け、意欲がある人を積極的に再雇用しています。

●仕事と育児の両立支援制度

平成23年7月1日現在



●ワーク・ライフ・バランス

ユニチカでは、職業生活と家庭生活の両立や高齢化問題に対応するため、育児休職や介護休職のできる制度を整備しており、具体的には法定を上回る育児休職、介護休職の期間や子ども看護休暇を導入しています。さらに「次世代育成支援対策推進法」に基づき、男性の育児参加促進にも取り組みを進めており、女性社員だけでなく、男性社員も育児休職を取得しています。

	育児休職者数	介護休職者数
2006年度	27	3
2007年度	26	0
2008年度	18	4
2009年度	16	1
2010年度	17	1



## 人財育成の取り組み

高いレベルの業績目標を達成するためには、組織を構成する社員一人ひとりの能力を高めることが必要と考えています。そこで、処遇や評価などの人事諸制度と能力開発や研修体系などの能力育成制度の両面から「人財育成」を強力に推進しています。

一方、自己啓発支援として、資格取得試験制度、通信教育、国内大学の留学制度などがあり、チャレンジ精神の高い社員が意欲的に利用しています。

### 研修体系(プログラム)と受講者数(2010年度)

1

階層別研修(407名受講)  
(1)昇格者研修(136名)  
(2)若手社員教育(271名)  
新入社員入社時研修  
基礎講座  
製造現場リーダー養成講座

2

専門教育(85名受講)  
(1)コンピテンシー強化研修  
法務研修  
(2)OJD研修  
指導責任者研修  
リーダー研修  
(3)実験計画法研修  
品質管理入門



## メンタルヘルスへの取り組み

厚生労働省の「労働者の心の健康保持増進のための指針」に基づいて積極的に取り組んでいます。管理職登用時には、メンタルヘルス研修を行い、役割認識や管理職自身および従業員の「心の健康づくり」に取り組んでいます。2010年度からはメンタルヘルス疾患による長期休職者の「復職支援ガイドライン」を導入しました。従業員一人ひとりの予防から復職までをサポートし、健康管理・健康増進を図っています。

## 人権啓発推進への取り組み

### ●人権啓発活動

ユニチカでは、人権啓発にグループを挙げて取り組んでいます。従業員に配布しているユニチカ行動憲章に人権尊重について明記するとともに、人権啓発推進組織を整備し、1年に一度は人権啓発研修を実施しています。さらに大阪同和・人権問題企業連絡会会員として、人権啓発情報の収集など幅広く人権問題に取り組んでいます。また男女雇用機会均等法施行に伴い、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントについても、各事業場に相談窓口を設置し、社員の意識・認識を高めています。

#### 人権啓発推進委員会 組織図

全社人権問題担当役員

人権啓発諮問委員会

全社人権啓発推進委員会

事業場人権啓発推進委員会

### ●不当労働行為

ユニチカでは、グループ会社ならびに海外法人において、「国際人権規約」や「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」などの国際条約に反する強制労働および児童労働を一切行っていないことを言明します。またこれらの不当労働行為並びにこれらを目的とした人身売買などを許さないことは『ユニチカ行動基準』にも明記しています。

### ●公正な採用活動

厚生労働省「公正な採用選考について」の趣旨を踏まえ、独自の『ユニチカ新卒採用面接マニュアル』を作成しています。採用選考に当たる面接官や採用関係者に会議・研修の場で配布・周知して徹底を図り、公正な採用活動を推進しています。

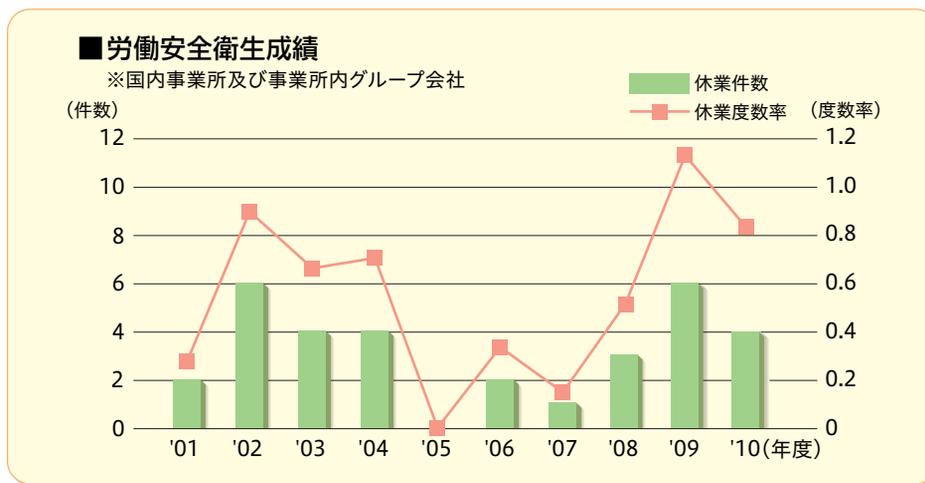


安全衛生に対する取り組み



私たちユニチカグループでは、2008年から始めた中期計画(第14次プログラム'08~'10年)において、「休業災害ゼロ」を目標に設定していますが、2010年度における休業災害の発生件数は4件、度数率は0.82となり、目標を達成できませんでした。しかしながら、前年度に比べると労働災害数は減少しており、各事業場での安全活動の成果の現れであると考えます。

労働災害の主な原因は機械設備に伴う労働災害と世代交代による安全技術伝承の不足によると考えられます。本年度より始まっている中期計画(第15次プログラム'11年~'13年)においても「休業災害ゼロ」を目標とし、リスクアセスメントと教育啓発活動を重点管理項目とした施策を推進していきます。



石綿関連の現状と対応



ユニチカグループでは、2005年からグループ横断的な「石綿関連対策会議」を設置し、石綿に係る対策を推進しています。飛散性石綿を含む部材が露出している箇所については、既に除去、封じ込め、あるいは囲い込み等の処置を完了しています。封じ込めや囲い込みを行った飛散性石綿や非飛散性石綿は、定期修理などの機会にあわせ、適切な方法にて除去しています。

また健康状況の確認のため、過去に石綿を取り扱う作業に従事していた従業員および退職者の中で、希望者には石綿健康診断を実施しました。2011年3月現在で把握している従業員および退職者の健康被害は、労働災害認定者6名(うち物故者5名)、石綿による健康被害救済法認定者3名(うち物故者3名)です。事業所やグループ各社周辺の住民の方からの健康被害に関する相談はありません。

労働災害認定者……………6名(5名)  
石綿による健康被害救済法認定者……………3名(3名)  
( )内は物故者



環境基本方針



私たちユニチカグループでは、1993年を環境元年とし、宣誓、基本理念、行動指針からなる「ユニチカ地球環境憲章」を制定しました。以後この憲章にのっとり、環境に配慮した企業経営を行うとともに、様々な環境活動に取り組んでいます。

●ユニチカ地球環境憲章

私たち人類の活動範囲が広がり、活発となるに伴って、空気、水、土などの自然環境が地球的規模で急激に変化し、地球という限られた生態系の中で、私たちと共に生きている動植物のみならず、私たちの存亡さえ危惧される事態に立ち至っている。ユニチカは、一世紀余りにわたる事業活動を通じて社会に貢献してきたが、このような地球環境の厳しい現状を深く認識し、地球環境の保護、改善に一層の配慮をし、適切な方策を講じることが企業活動の根幹であることを宣明する。

●基本理念

暮らしと技術を結び、人と自然との共生に貢献する企業活動を行う。

●行動指針

1	地球環境を常に配慮する	企業活動を行うに当たっては、地球環境に与える影響を常に配慮する。特に製品の製造に当たっては、地球環境に悪影響を与えないように厳格な管理をする。
2	技術開発で貢献する	地球環境の保護、改善に貢献する技術の研究開発を積極的に推進する。
3	資源・エネルギーを効率的に利用する	資源・エネルギーの効率的な利用を促進するとともに、限られた資源のリサイクルに努める。
4	広報、啓発活動を推進する	地球環境の保護、改善に関する情報について積極的な広報活動を行うとともに広く啓発活動を推進する。
5	ユニチカグループの総合力を発揮する	ユニチカグループは、この憲章にのっとり総合力を発揮して、地球環境の保護、改善の実現に努める。

TOPICS トピックス

生活健康事業部では2011年1月に『第6回 β-グルカン シンポジウム2011 in 東京大学』を開催しました。シンポジウムでは大学の先生をお招きし、ハナヒラタケに多く含まれるβグルカンの優れた生理機能効果について一般参加者やマスコミの方へ情報を発信しました。





## 環境保全活動

### ●環境保全活動の歩み

私たちユニチカグループは、30年以上にわたって連続と進化し、さらに未来へと続いていく環境経営を進めます。

ユニチカは、我が国が公害問題で揺れていた1973年に「環境保全規程」を定め、規制値や基準値が守られればよしとする、他律的な生産活動とは一線を画しました。1991年には全社組織として環境保全委員会を新たに設け、1993年の『ユニチカ地球環境憲章』制定、年1回の環境監査開始と、現在まで続く環境配慮型経営の基本路線を確立。1998年には、ユニチカグループとして社会的使命を果たすための基本的な行動方針を定めた『ユニチカ行動憲章』を制定し、その第一条において環境・安全への配慮責任を明記しています。

この行動憲章を受け、日頃の事業活動において守るべき具体的な組織・従業員の行動基準を定めたのが、2001年4月に制定・施行した『ユニチカ行動基準』です。環境・安全から、コンプライアンスや、社会、ステークホルダーとの共生意識へと広がる、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動へと明確な一歩を印しました。

1973. 09	環境保全規程を制定・施行
1991. 10	環境保全規程を改正、環境保全委員会設置
1993. 04	地球環境憲章を制定・施行
1993. 05	環境保全規程を改正し、環境規程として制定・施行/環境委員会を設置し、毎年開催
1994. 05	環境監査を開始(年1回) (事業所自主監査と、本社スタッフによる社内監査)
1996. 07	環境中期計画第1次(1997~1999年度)目標策定
1996. 09	社内啓発誌“かんきょう”を発行開始
1997. 10	主要事業所でISO14001の認証取得に向けて活動開始
1998. 01	ユニチカ行動憲章制定・施行
1999. 01	ユニチカケミカル(株)がISO14001取得(グループ第1号)
2000. 10	環境中期計画第2次(2000~2002年度)目標策定
2001. 04	ユニチカ行動基準作成
2002. 10	ユニチカ環境報告書発行
2002. 10	環境中期計画第3次(2003~2005年度)目標策定
2005. 10	環境中期計画第4次(2006~2008年度)目標策定
2008. 10	環境中期計画第5次(2009~2011年度)目標策定

### ●ISO14001の認証取得状況

ユニチカグループでは、環境に配慮した企業活動の国際的な基準となっている、ISO14001の認証取得にも積極的に取り組んでいます。1999年以来、5事業所(宇治、岡崎、坂越、垂井、常盤)と主要11グループ会社が認証を取得しました。関係会社の認証取得を支援する一方で、各社の環境監査を行っています。

1999. 04	(株)アドール
1999. 11	ユニチカ坂越事業所
2001. 01	ユニチカテキスタイル(株)常盤工場
2001. 03	ユニチカ宇治工場
2001. 03	ユニチカ宇治プラスチック工場
2001. 03	ユニチカ中央研究所
2001. 03	ユニチカガラスファイバー(株)京都工場
2001. 03	(株)ユニチカ環境技術センター近畿事業所
2001. 10	ユニチカ岡崎工場
2001. 10	ユニチカ設備技術(株)中部事業所第2事業本部
2001. 10	日本エステル(株)岡崎工場
2001. 10	(株)ユニチカ環境技術センター中部事業所
2001. 12	ユニチカ垂井事業所
2001. 12	ユニチカ設備技術(株)垂井グループ
2003. 12	ユニチカガラスファイバー(株)垂井工場
2004. 02	ダイアボンド工業(株)
2004. 09	寺田紡績(株)
2008. 06	(株)ユニオン



## TOPICS トピックス

生活健康事業部の新素材であるラクトビオン酸が2011年度農芸化学会の一般講演トピックス賞を受賞しました。ラクトビオン酸は伝統的な製法により調製された「カスピ海ヨーグルト」に含まれる成分であり、カルシウムなどのミネラルの吸収を促進する新しい機能性糖質です。



環境中期計画

私たちユニチカグループは、環境中期計画を策定して、産業廃棄物の削減と資源・エネルギーの効率的利用を重点目標に計画的な改善に取り組んでいます。

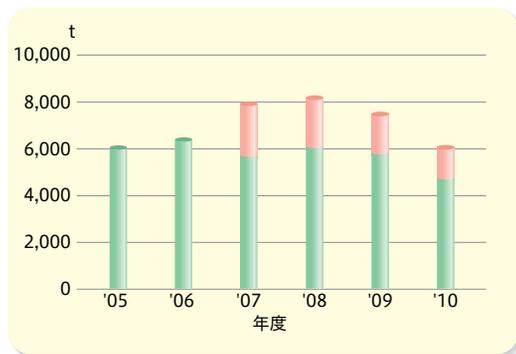
第5次環境中期目標からは、国内グループ会社を含めた新たな対象範囲として、2007年度の結果を基準にして中期目標を策定し取り組んでいます。

●第5次(2009年度～2011年度)環境中期計画

重点課題	目 標	2010年度の結果	図No.
1 産業廃棄物量の削減	2007年度基準 4%削減	前年度比で廃棄物量は大幅に減りましたが、算定範囲の変更に伴って基準値も下がったため目標到達には至りませんでした。	(1)
2 生産工程内ロスのリサイクル率の向上	2007年度基準 2%向上	増産効果とリサイクル活動の効果により前年度比で向上しましたが、目標に対しては未達となりました。	(2)
3 エネルギー原単位の改善	最終年度 前年度比1%削減	増産等の効果により本年度は達成できました。	(3)
4 エネルギー使用量の削減	2007年度比 3%削減	前年度比増加に転じましたが、エネルギー転換等の省エネ活動により、目標達成を継続しています。	(4)

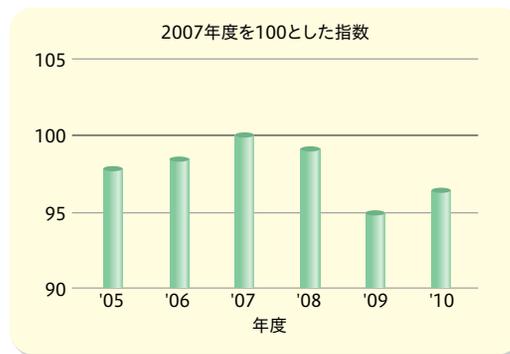
(注) 第5次環境中期計画対象範囲：国内事業所、事業所内グループ会社、および国内グループ会社

● 産業廃棄物処理量推移 ●



図(1)

● リサイクル率の推移 ●



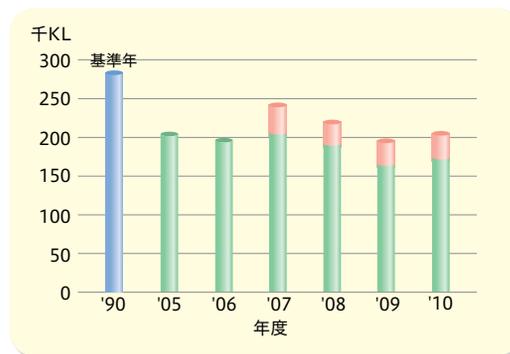
図(2)

● エネルギー原単位推移 ●



図(3)

● エネルギー使用量推移(原油換算) ●



図(4)

■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社 ■ 事業所外グループ会社

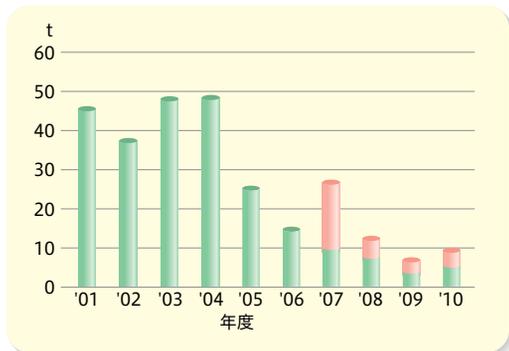


大気と水域への環境負荷低減

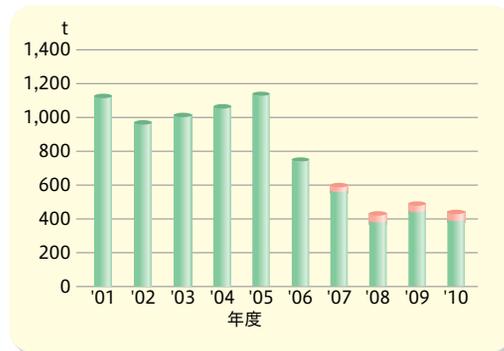


各生産拠点において、重油から液化天然ガスへのエネルギー転換やディーゼル発電の停止等の施策により、排ガス中に含まれるばいじんやNO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>およびCO<sub>2</sub>の排出量削減に努めています。また、排水処理設備の適切な運転管理により、総排水量や排水中の負荷(COD)低減を実現しています。

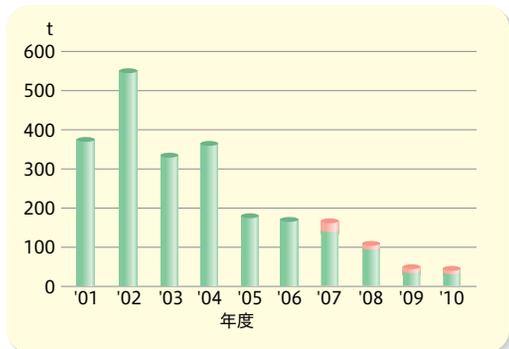
● ばいじん排出量推移 ●



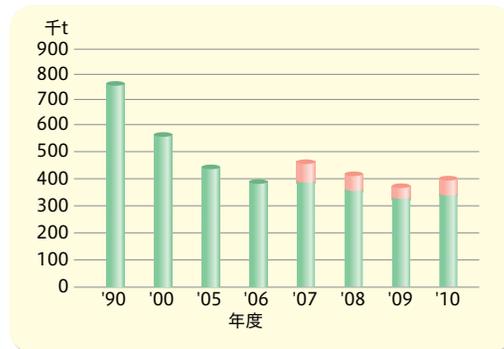
● NO<sub>x</sub>排出量推移 ●



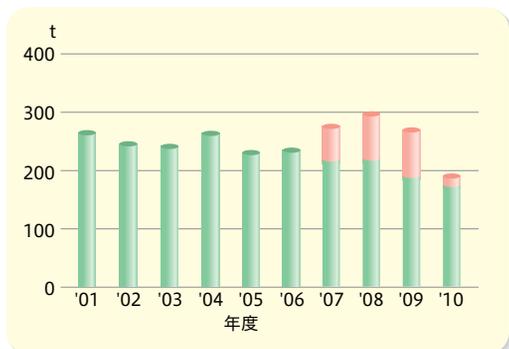
● SO<sub>x</sub>排出量推移 ●



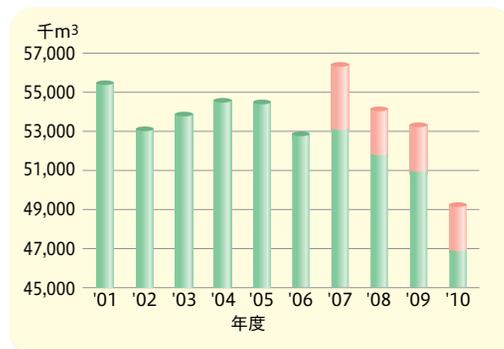
● エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量推移 ●



● 水域への負荷(COD)推移 ●



● 総排水量推移 ●



■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社 ■ 事業所外グループ会社

(注) NO<sub>x</sub>:窒素酸化物 SO<sub>x</sub>:硫黄酸化物 COD:化学的酸素要求量



化学物質管理への取り組み

●PRTR制度届出対象物質の管理

ユニチカグループでは、人の健康や生態系に害を及ぼすおそれがある化学物質として、PRTR制度対象(化学物質排出移動量届出制度)となる物質について環境への排出量の把握と削減に努めています。

● 2010年度 PRTR制度届出対象物質の排出量と移動量 ●

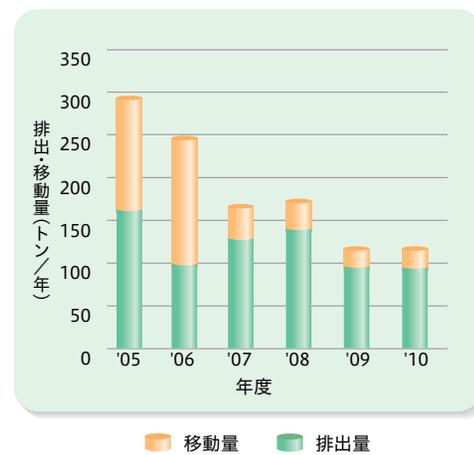
PRTR対象物質の名称	大気	水域	排出量合計	移動量
アセトアルデヒド	6	2	8	0
石綿	0	0	0	5
ビスフェノールA	0	0	0	3
ε-カプロラクタム	15	0	15	0
ジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC-225)	2	0	2	0
ジクロロメタン	32	0	32	9
テレフタル酸	0	0	0	1
トルエン	22	0	22	1
5-[N,N-ビス(2-アセチルオキシエチル)アミノ]-2-(2-プロモ-4,6-ジニトロフェニル)-4-メトキシセトアニリド	0	0	0	1
ハウ素及びその化合物	0	12	12	0
n-ヘキサン	1	0	1	1
その他	1	1	2	1

ユニチカ国内事業所 および 事業所内グループ会社 合計	55	14	69	18
--------------------------------	----	----	----	----

ユニチカ事業所外グループ会社 合計	25	0	25	4
-------------------	----	---	----	---

(トン/年)

● PRTR制度対象物質の排出量・移動量 ●



●改正化審法への対応

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の改正に伴い、平成23年4月に施行された一般化学物質や優先評価化学物質の届出制度など諸制度について、グループ全体へ情報を発信し、各段階で改正内容の周知および該当物質の把握に努めています。

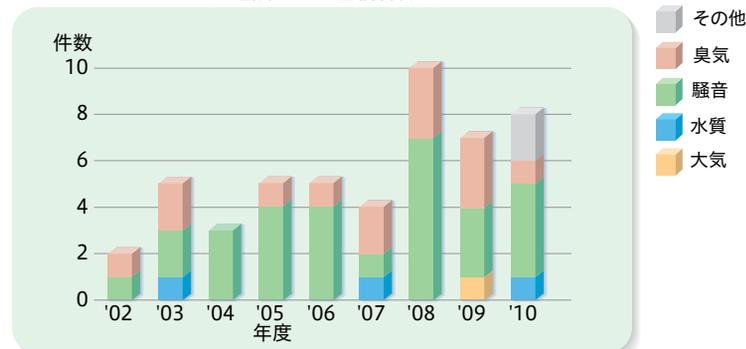
物流にかかわる環境負荷の低減

物流においては、モーダルシフト、輸送効率化などを進め、原材料、製品、廃棄物などの搬入と排出に伴う環境負荷低減に取り組んでいます。ユニチカが特定荷主(輸送量:30百万トンkm/年)として行政へ届け出た2010年度の輸送量は89.3百万トンkm、CO<sub>2</sub>排出量は26.9千トンとなりました。

環境に関する苦情

ユニチカグループでは、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業を目指す」との経営ビジョンのもと、地域住民の皆様の生活に配慮した事業活動を展開しています。それぞれの苦情に対し、その原因と実施した対策の効果について地域住民の皆様に確認し、コミュニケーションを図りながら再発防止に努めています。今後も地域住民の皆様の快適な生活環境に貢献できるよう改善に努めてまいります。

● 近隣からの苦情件数 ●



対象範囲:ユニチカ国内事業所および国内グループ会社

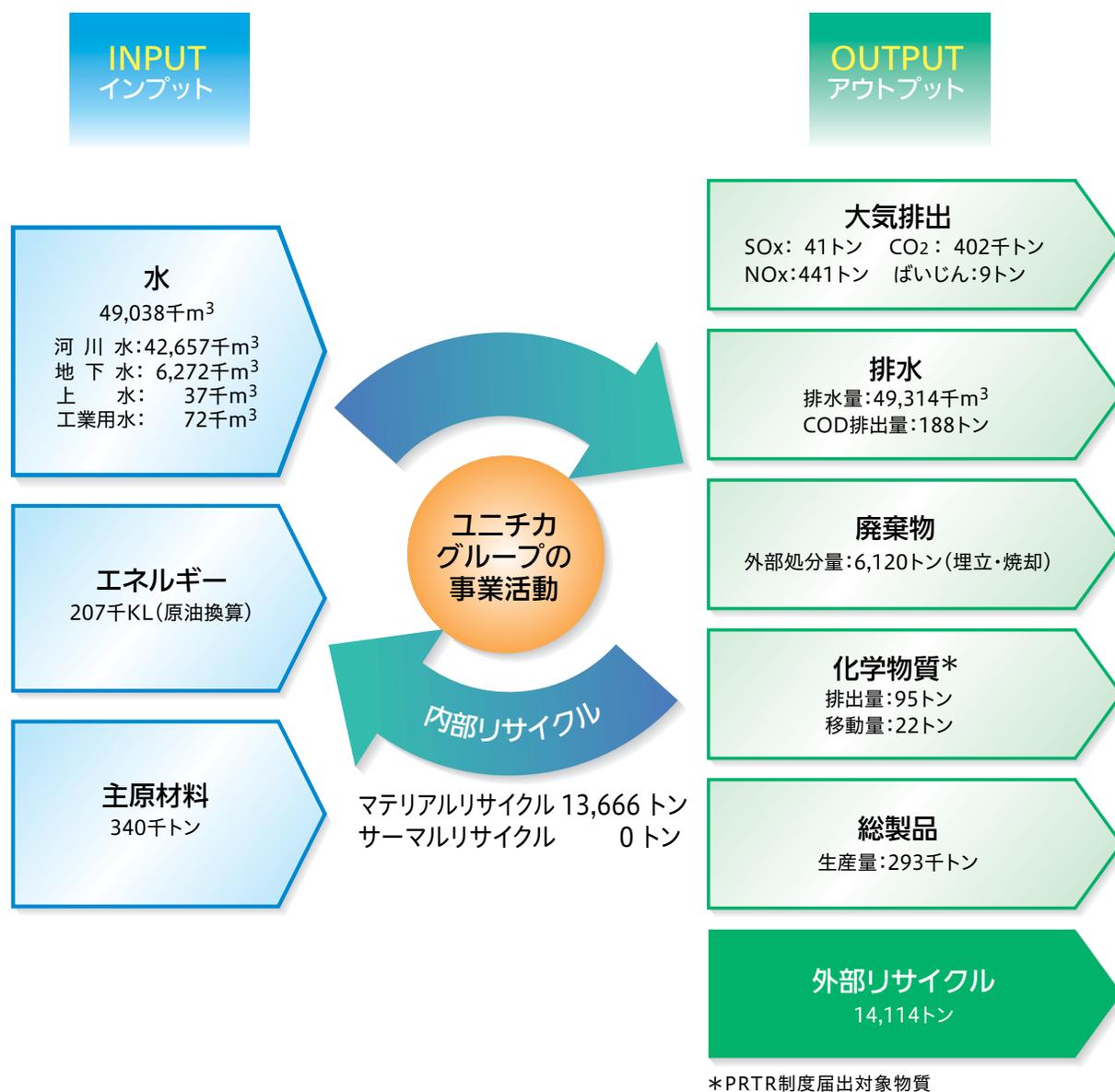


環境負荷の全体像



●事業活動における環境負荷(2010年度実績)

2010年度におけるユニチカグループのマテリアルフローは、下図のとおりとなりました。





## 環境会計

ユニチカグループは、環境に配慮した事業活動の一環として環境会計に取り組んでいます。会計の算定にあたっては、2005年に環境省から公表された「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしており、今後もより正確でわかりやすい環境会計の公開を続けていきます。

### ●環境会計の目的

環境保全への取り組みにあたり、投資額や費用額を定量的に認識・測定することで、一層の効率化を図るとともに、合理的な意思決定を行ってまいります。  
また、環境会計情報を開示することにより、ステークホルダーに対する説明責任を履行し、環境保全に関する取り組みをさらに加速させてまいります。

### ●環境会計の集計方法と結果

集計範囲：ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社、(株)ユニオン

対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日

集計方法：投資額には環境を主目的としていない案件の環境投資分を含みます。  
また、費用額には労務費、経費、減価償却費を含みます。

ユニチカグループの2010年度の環境に関する設備投資額は251百万円でした。環境負荷の低減や原料の回収リサイクルに関するものが主な投資対象となっています。  
また、環境に関わる費用は1,502百万円でした。主な費目は公害防止設備の維持管理、廃棄物の処理(リサイクル費用を含む)、環境負荷低減のための製品研究開発などです。

### ●環境保全コスト

(単位:百万円)

区分	2010年度		備考	
	設備投資額	費用		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	76	600	公害(水質・大気・騒音)防止対策
	地球環境保全コスト	87	64	省エネルギー、地球温暖化防止
	資源循環コスト	83	370	廃棄物処分、リサイクル
上・下流コスト	—	45	梱包材リサイクル	
管理活動コスト	—	75	環境マネジメントシステム維持、環境教育、負荷監視	
研究開発コスト	—	286	環境配慮型製品の開発	
社会活動コスト	6	46	緑化改善、美化運動	
環境損傷対応コスト	—	16	SOx負荷量賦課金	
合計	251	1,502		

### ●経済効果

算定根拠が明確で、実質的な対環境保全効果の高い項目について計上しました。  
なお、推定的な効果は算定していません。

(単位:百万円)

項目	2010年度
省エネルギーによる費用削減	43
省資源および廃棄物削減に伴う費用削減	10
リサイクルによる有価物の売却益	149



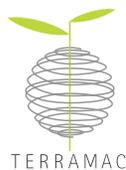
環境保全のための商品と技術

植物由来のバイオマス素材

●テラマック®

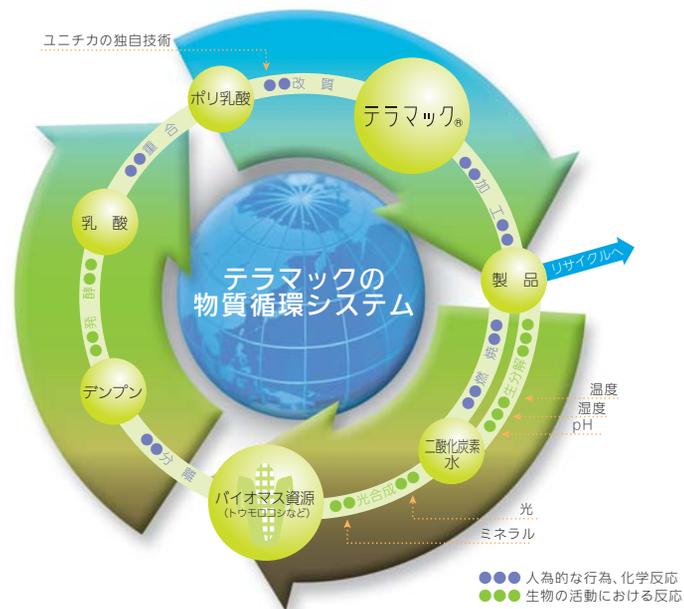
『テラマック』は、植物由来のポリマーからなるバイオマス素材であり、最終的にはCO<sub>2</sub>と水に分解され、その後植物に吸収されて、再び『テラマック』になります。現在、『テラマック』はポリ乳酸(Nature Works社、Ingeo)を用いています。『テラマック』の用途は包装フィルム、食品容器、ティーバッグ、浴用タオル、土木資材、電子機器部品など、生活の全般をカバーしつつあります。なかでも、ポリ乳酸由来の製品として世界で初めてユニチカが開発した耐熱発泡容器・耐熱食品容器は、熱湯注入や電子レンジでの加熱にも耐えることから、世界的に注目されています。また、耐久性や耐熱性の点で厳しいスペックが要求される携帯電話の筐体や、難燃性も要求されるデジタル複合機のパーツにも採用されています。最近では耐熱グレードの射出成形用樹脂を開発し、ヘルスメーターの本体外装などに採用されています。2011年5月より、ユニチカオンラインショップで、カーボンオフセット付のテラマック使用製品の販売を始めました。原料調達から製造、物流、廃棄までで発生するCO<sub>2</sub>の排出量を把握し、削減努力だけでは対応しきれないCO<sub>2</sub>を、森林吸収源プロジェクトから創出された排出権を用いて埋め合わせすることで相殺(オフセット)します。ユニチカはオフセット事業に取り組むことによって温室効果ガス削減に貢献していきたいと考えており、ユーザーの皆さまには『テラマック』を使用したエコ商品にカーボンオフセットを行うことで、さらに環境にやさしい商品をお求めいただけます。

植物の恵みと人の技術から生まれた『テラマック』。地球と人に選ばれる理想の素材を目指しています。



カーボンオフセット付テラマック製品

テラマックは、自然のライフサイクルの中で生きています。



●キャストロン®

100%植物由来の原料からなるナイロン11『キャストロン』。非食物であるヒマ(唐胡麻)の種子を原料としており、環境負荷の少ないナイロン繊維です。特性面においても従来のナイロン繊維にはない、その分子構造に起因する優れた耐摩耗性、耐屈曲疲労特性、耐溶剤性、寸法安定性や低温柔軟性を有しています。また軽量の素材ですので、これらの特徴を生かしてカバン用途など非衣料分野での展開で期待されている注目バイオマス素材です。



キャストロンが採用されているカバン





究極の環境配慮型素材

●ポリ尿素

ユニチカは、ポリ乳酸やナイロン11などのバイオマス由来樹脂を用いた製品開発を進める中、CO<sub>2</sub>を直接固定化できる『ポリ尿素』に注目しています。そして、2011年3月、独立行政法人 産業技術総合研究所コンパクト化学システム研究センターと共同で、CO<sub>2</sub>とバイオマス由来ジアミンから『ポリ尿素』を製造する技術を開発しました。

このポリ尿素は熱可塑性であり、耐熱性や機械物性、電気絶縁性などにも優れ、既存のポリアミドなどのエンジニアリングプラスチックが使用される用途・分野への利用が期待されます。また、従来の硬化型の尿素樹脂とは異なり、有害物質であるホルマリンを使用しません。100%バイオマス由来かつCO<sub>2</sub>の固定にも貢献できる、

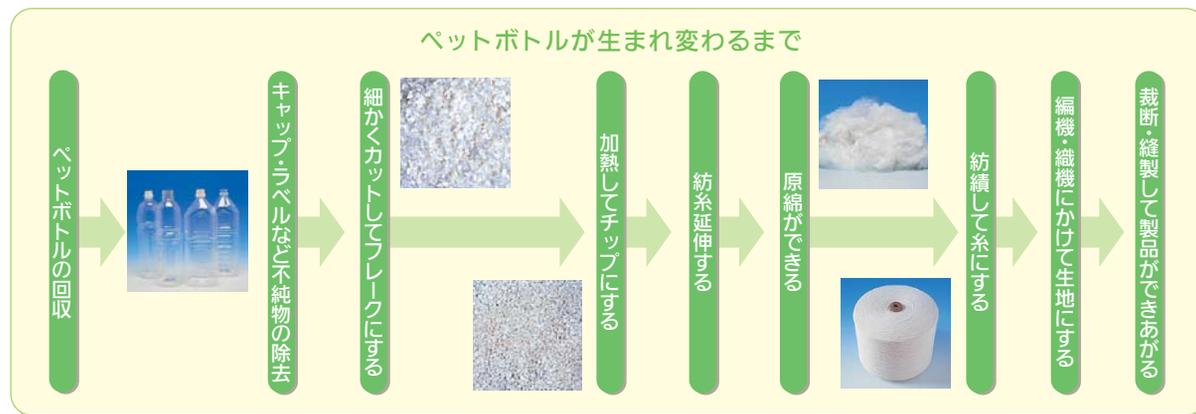
これまでにない究極の環境配慮型素材として、自動車用部品、電気・電子材料用部品、繊維、フィルムなど幅広い用途への展開が期待できます。



再生ポリエステル繊維

●ユニエコロ®

飲み終わったペットボトルは、いまや貴重な資源です。ユニチカでは環境保全の一環としてペットボトルのリサイクル化に取り組み、優れた紡糸技術を生かして、『ユニエコロ』を開発しました。従来のポリエステルと同等の風合いや機能性を有し、限りある資源の再利用と地球環境を考えた繊維です。



ユニフォームリサイクルシステム

●エコラリー®

リサイクルシステム『エコラリー』は、ユニフォーム素材に求められる「原料から回収まで」をサポートする最適なソリューションです。使用後のユニフォームを回収して、反毛再生化し、フェルト素材として、カーペットや自動車の内装材などの新たな製品に生まれ変わらせるリサイクルシステムです。循環型社会の実現、またCO<sub>2</sub>排出削減に向けて、まさに環境に配慮したシステムといえます。『エコラリー』は環境省「産業廃棄物広域認定制度」の認定を取得しています。





再生ガラスビーズ



●ユニビーズ®

『ユニビーズ』は数ミクロンから数ミリのガラスビーズです。なかでもロードマーキング用ユニビーズは「光の再帰反射効果」を利用して、各種ロードマーキングに使用され、夜間の視認性を上げるにより交通安全に役立っています。建築廃材等のガラスカレットを再資源化したリサイクル製品であり、環境負荷低減に寄与していることから、(財)日本環境協会からエコマークの認定(認定番号 05 131 001号)を受けています。また、地球にやさしいグリーン購入の対象製品として、大阪府知事が認定する「大阪府認定リサイクル製品」(認定番号20-126)にも登録されています。



uniBEADS  
ユニビーズ

低環境負荷 侵食防止シート



●セグローバ®

『セグローバ』は自然環境や景観に配慮した侵食防止シートです。黒原着ポリエステルフィラメントを、一定の空隙と厚みが保持されるよう3D製編し、耐侵食性を高めることに成功しました。シートの表裏層は土砂充填性を考慮し、ハニカム構造としています。『セグローバ』を使用することにより、芝や茅(かや)など植物の耐侵食力を補強することが可能で、堤防法面や河岸の流水による侵食をくい止めます。また従来のコンクリートブロックマットを使う場合と比較して、CO<sub>2</sub>排出量を約90%削減する効果が期待できます。『セグローバ』は(財)土木研究センター発行の「侵食防止シートの性能評価証明書 第0001号」を取得しています。



SEGUROVA®

大気汚染防止関連・環境測定



- 土壌調査
- 水質・底質調査
- 水道水の分析
- 大気・悪臭調査
- ダイオキシン類分析
- 放射線量測定 など

ユニチカ環境技術センターでは、最新の設備と技術力を基盤に、環境調査、測定分析をはじめ、各種産業の基盤となる様々な調査を行っています。放射能汚染問題への対応では有資格者(放射線取扱主任者)を中心に放射線量測定を行っています。土壌調査では、豊富な経験を持つ6名の土壌汚染調査技術管理者を有し、その調査技術に高い信頼を得ています。ダイオキシン類分析では、ISO/IEC17025認定、環境省受注資格審査認定を維持し、毎年3000検体以上の分析を行っています。その他、水質分析(水道水分析では水道GLP取得)、排気ガス分析、悪臭分析、騒音・振動測定、石綿分析、絶縁油中の微量PCB分析など生活環境を守るためのお手伝いをしています。



ダイオキシン類分析



放射線量測定



事業所情報



事業所	大気			水質								所在地 主要製品
	SOx	NOx	ばいじん	BOD	COD	浮遊物質	油分	窒素	リン			
単位	Nm <sup>3</sup> /時	ppm	g/Nm <sup>3</sup>	mg/L	Kg/日	mg/L	mg/L	mg/L	Kg/日	mg/L	Kg/日	
<b>宇治事業所</b> 【敷地面積】311,781m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0058・JCQA-E-0249	29.1 17	199 59	0.025 0.01	— —	1131 298	30 5.4	16 0.5	— —	722 102	— —	98 5	京都府宇治市宇治ノ内5  ナイロン樹脂、ナイロン繊維、 エンジニアリングプラスチック、 ナイロン・ポリエステルフィルムなど
<b>岡崎事業所</b> 【敷地面積】313,865m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0292	93.3 12	100 41	0.05 0	25 2.6	719 78	20 4	10 0	15 1.6	385 34	2 0.4	51 8.9	愛知県岡崎市日名北町4-1  ポリエステル樹脂、 ポリエステル繊維、 スパンボンド(長繊維不織布)、 医療用具など
<b>豊橋事業所</b> 【敷地面積】270,804m <sup>2</sup>	0.49 0.03	180 76	0.3 0.04	— —	11.9 2.3	70 1.3	5 <1	120 5.3	— —	16 0.02	— —	愛知県豊橋市曙町松並101  不織布 (土木・ルーフィング用シート)、 バイオ事業(ハナビラタケ)
<b>坂越事業所</b> 【敷地面積】191,236m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0093	0 0	89.3 38	0.12 0.004	— —	348 98	3.9 3	10 0.7	15 0.9	— —	2 0.04	— —	兵庫県赤穂市高野846  ビニロン繊維 (セメント・ゴム補強、畳糸、製紙用 バインダーなどの産業資材向け)
<b>垂井事業所</b> 【敷地面積】156,224m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0323	11.5 0.4	180 40	0.3 0.003	— —	108.4 22	50 3.7	5 1	120 2	42.7 4.5	16 0.1	5.6 0.2	岐阜県不破郡垂井町2210  綿不織布、ガラスクロス
<b>常盤事業所</b> 【敷地面積】137,551m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0221	17.5 0.3	130 94	0.3 0.004	80 <1	— —	100 <1	2.5 <1	— —	— —	— —	— —	岡山県総社市中原88  純綿糸、合成混紡糸と純綿糸、 合成混紡糸の織物
<b>(株)ユニオン</b> 【敷地面積】6,886m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 JCQA-E-0221	— —	180 13	0.15 0.002	300 9	— —	300 7	2 1.3	150 1	— —	20 0.08	— —	大阪府枚方市大峰南町10-1  ガラスビーズの製造

※表の数値は 規制値 2010年度測定値 です。

注1: 規制値は法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法)、条例、県指導、協定の中で最も厳しい値を示しました。  
 注2: 事業所敷地内の関係会社の環境負荷分も含まれます。  
 注3: SOxは硫黄酸化物、NOxは窒素酸化物、CODは化学的酸素要求量、BODは生物化学的酸素要求量です。  
 注4: 大気については各事業所にあるそれぞれの設備の内、主要設備の測定値を記載しました(総量は事業所全体の値)。  
 注5: 水質については各事業所で最も高い値を示した排水口の測定値を記載しました(負荷量は事業所全体の値)。

お問い合わせ先  
**ユニチカ株式会社**



〒541-8566 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号  
CSR室CSRグループ：TEL 06-6281-5125  
ホームページ：http://www.unitika.co.jp/

